

育成 モノづくり人材

Vol. 60

地元では「八工」の名で知られる滋賀県立八幡工業高校は、1961年（昭和36）に開校した。滋賀県中央部の人づくりに取り組む。

入学してから半年間は、学科の区別をなくして、クラス編成の「ミックリ」の基礎となる計測・スチームルーム」で、測定を取り組む。電気工業の基礎を学習する。「3学科の基礎分野を学ぶため、専門学科での学習をより深め

近畿では数少ない環

地元では「八工」の近江八幡市に位置し、県内各地域から生徒が集まる。「やればできる八工魂」をスローガンに、企業に信頼される。

機械、電気、環境化学の3学科編成だが、人づくりに取り組む。

専門分野ごとの工業の基礎知識の習得が指導の中心となる。機械

年生は湖上研修で琵琶湖の水質検査などを行う。「琵琶湖は汚れている」と思っている生徒

滋賀県立八幡工業高校



井関校長

【DATA】 ▷校長=井関英二氏
▷所在地=滋賀県近江八幡市▷学科構成=機械、電気、環境化学▷生徒数=712人▷主要設備=旋盤、フライス盤、マシニングセンター、FAシステム、各種試験機、高電圧実験装置、流動実験装置など▷主な進路=関西電力、京セラ、ダイワク、島津製作所、日清食品、寺嶋製作所、立命館大学、大阪工業大学、長浜バイオ大学など

「琵琶湖守る」環境化学科



実習を通じてスキル向上に取り組む

環境化学科は、琵琶湖を「が意外に多い」（同）抱える滋賀県の地域性ため、その実態を理解から、環境保全に取り組む技術者を養成する。琵琶湖を守る人材を育てる。

校生徒が毎週1回、約1時間かけ校舎の周囲をランニングするもので、精神的・身体的な力を向上にも力を注ぐ。生徒に対する評価は発信にも力を入れる

（同）ことで、地域で

で、精神的・身体的な

人に表れる。卒業生は

の存在感をさらに高め

ていく。

が、井関校長は「県内

では一番新しい工業高

校で、卒業生の活躍が

認知度を高めてくれて

いる」という。

地元との関係も密接だ。同市内のポリテク

カレッジ滋賀や企業と

連携した技術講習、近

隣の小中学校の体験学

習、夏休みの工作教室

開催に加え、一斉清掃

にも参加する。部活動

と運動した交流も盛ん

だ。「工業高校の魅力

發信にも力を入れる」

（同）ことで、地域で

製造業を中心とした求

めの地球規模の学習及

び観測プログラム（グ

ローブ）」の指定を受け

「八工走」がある。全

くも行するなど、人間

活性化している。開校か

美（金曜日に掲載）